

鳥取県立図書館の目指す図書館像(第2次改訂版)の柱とキーワードに関する評価

(1) 4つの柱

第1の柱 仕事とくらしに役立つ図書館	行動評価	A
目標		
(1) 地域経済の活性化と地域の自立への貢献 ○ビジネス支援サービスの充実 ○働く気持ち応援サービスの充実 ○県政への貢献 ○地域活性化への貢献		
<令和4年度の主な取組> ・コロナ禍において、メールや電話、FAX等の非来館での資料相談や読書案内を積極的に受け付けた。オンライン会議や感染症対策、助成情報など、コロナ禍において必要な情報を探す方が多数おられた。 ・県庁内図書室・議会図書室と連携して県庁職員、県議会議員の資料相談に応じている。 ・県職員、県議会議員の直接来館による資料相談もあり、図書館資料の活用が進んでいる。 ・「図書館で夢を実現しました大賞」を実施し、図書館を活用し起業・経営等に結びついた事例を収集した。また、図書館活用が役に立ったビジネスパーソンへのインタビューを行い、「としょかんビジネストーク」としてホームページへの掲載を開始した。 ・ビジネス情報相談会等専門機関との連携による相談会を継続開催した。相談会の一部はオンラインにも対応し、感染予防対策を徹底しながらコロナ禍であっても必要な情報に触れていただく機会を提供した。 ・鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会と連携し、県立図書館をはじめ、市町村・高等学校・大学図書館で、グリーン商品のリレー展示を広く行った。今年度は新たに、高等学校への出張授業や子ども向けイベントも実施した。 ・県内で開催する様々なイベントで出前図書館を実施した。		
(2) 豊かなくらしへの貢献 ○医療・健康情報サービスの充実 ○法情報・困りごと支援・くらしの安心に関するサービスの充実		
<令和4年度の主な取組> ・境港市民図書館との共催により、くらしに役立つ医療・健康情報サービス普及啓発事業講演会を開催した。会場及びオンラインのハイブリッド開催とした。 ・県健康政策課や県長寿社会課等と連携し、関連展示を実施した。 ・行政書士会、司法書士会と共催で毎月各1回無料相談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行政書士相談会は5月以降の実施に、司法書士相談会は9月以降の実施になった。 (・例年法曹三者と連携して開催している「自由研究お手伝い！小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう！」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。)		
(3) ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進 ○あらゆる利用者に対応したサービスの充実 (子育て応援サービス、高齢者サービス、はーとふるサービスなど) ○多文化サービスの提供		
<令和4年度の主な取組> ・男性(父親、おじいさん)が絵本などの読み聞かせを行う「読みメン」を普及するため、「読みメンのおはなし会(男性職員による絵本の読み聞かせ)」、図書展示を実施した。 ・テレビ音読教室は、地元のケーブルテレビ局で年間計10作品を放送する。(前期5作品は放映済み、後期5作品は3月中に放映予定) ・手話通訳者と協力し「手話で楽しむおはなし会」を開催している。多様な方に本を楽しむ機会を提供すると共に、手話の普及啓発に努めている。		

・社会福祉法人鳥取県ライトハウス点字図書館、NPO法人鳥取県自閉症協会との共催により、当館の「はーとふるサービス」及びアクセシブルな書籍等の普及啓発を行うため、マルチメディアデイジーの紹介・利用体験、当館の「はーとふるサービス」の紹介を行うマルチメディアデイジー体験会を開催した。

・様々な障がいの立場から、豊かな読書の方法、日常生活に必要な情報の集め方、具体的なサポート方法等を学ぶと共に、障がいに配慮した様々な資料や図書館の取組を周知・啓発するため、伊藤忠記念財団との共催により、鳥取県では初開催となる「読書バリアフリー研究会」を開催した。

・子ども連れで来館する利用者向け託児サービス「託児で来ぶらり」を再開した。

(・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館での音読教室は実施していない。)

○相談会における共催・協力機関や講座等の共催館等と情報共有や役割分担等を密に行った。

《成果と課題》

○音読教室をテレビ放映しており、当館のホームページにも公開している。音読教室のコンテンツ活用や広報が課題である。

○農業分野の情報に対して多くのニーズがあることが分かった。今後も継続して取り組む必要がある。

○産業支援機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースや、産業支援機関の職員が調査のために資料相談を受けに来館されるケースがあり、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。

○産業支援機関や、市町村立図書館からビジネス関連の様々な相談に対応することで司書のスキルアップが進んでいる

○中西部地域で図書館のビジネス支援機能の周知を図るため、より一層市町村立図書館と連携し事業展開していく必要がある。

○障がいの有無にかかわらず全ての人が等しく読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けることのできる社会の実現を目指して策定した「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」に基づき、関係機関等と連携して読書バリアフリーを推進していく必要がある。

○担当者の異動等により図書館との連携が弱まることがないように、継続して図書館のビジネス支援機能を周知する必要がある。

《今後の展開》

○医療・健康情報についての資料の充実や専門機関との連携強化等により、県民が求める医療・健康情報に迅速にたどり着ける図書館サービスの充実に取り組む。

○今後も関係機関や市町村立図書館等と連携しながら、必要としている人に情報が届くよう、サービスや計画の周知を図り、障がいの有無にかかわらず全ての県民が、等しく読書を通じて情報を入手できる社会の実現に向け、県内の誰もが図書館を利用できる環境整備を進めていく。

○新型コロナウイルスに関する最新情報を収集し、展示やHPを活用し、迅速に県民へ届けていく必要がある。

○コロナ禍への対応やSGDsなども視野にいれて取組みを進める。

○より多様な資料相談に応えるため、職員の資料相談スキルの底上げに努める。

○ビジネス支援関係の情報提供機能の強化を継続する。

○産業支援機関と協力して、継続して相談会を実施する。

第2の柱 人の成長・学びを支える図書館	行動評価	A
目標		
<p>(1)子どもの読書推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの読書推進のための環境整備 ○中学生・高校生の読書推進 ○市町村立図書館と連携した支援 		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生以上の子どもの読書推進を目的とする「子どもと本をつなぐ講座」を、子どもの本の紹介文の書き方をテーマとして県内7か所で、ハイブリッド方式により開催した。 ・市町村立図書館職員向けに「児童サービス実務研修講座」として、ストーリーテリングやわらべうた等についての研修を実施した。また、児童サービスについての情報交換も行った。 ・オンラインで、図書館ツアーや特別支援学校への読み聞かせを実施した。 		
<p>(2)学校図書館への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館支援センター ○市町村が行う学校図書館支援のサポート 		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育普及講座(小・中・特支対象)、学校司書のためのICTスキルアップ講座(小・中対象)、学校図書館司書研修会(高・特支対象)、学校図書館司書実務研修会(高校対象)を実施した。 ・学校図書館関係職員、市町村立図書館職員、特別支援学校生徒対象の研修会へ講師を派遣した。 ・県教育センターと連携し、司書教諭研修で講義を実施した。 ・授業活用選定用見本図書を貸し出した。 ・各高等学校と特別支援学校の学校図書館に対する訪問相談を実施した。 ・学校図書館活用教育推進ビジョン(改訂版)のリーフレットを幼稚園、小中義務教育学校、高等学校、特別支援学校の全教職員に配布、普及に努めた。 ・「学校図書館を活用することで身に付けたい情報活用能力系統表」をポスターにし、全小中義務教育学校、高等学校、特別支援学校に配布し、研修会などで広報した。 		
<p>(3)生涯学習への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習としての読書推進 ○生涯学習の場としての有効利用 ○情報リテラシー向上の支援 		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県教育委員会が推進する「ふるさとキャリア教育」に貢献するため、それぞれのライフステージで活用できる図書館の資料、コーナー、サービス等を紹介した「ホンとにやくだつ！ふるさと図書館すぐろく」を作成し、小学校・特別支援学校・市町村立図書館等へ配布した。 ・毎月、季節や時事の話題に応じた様々なテーマ展示、ホームページでの発信、行事・イベントを開催し、あらゆる年代の利用者に図書館資料の利用促進を図った。 ・資料相談の際に資料検索の方法や情報収集の考え方を伝えるよう努めた。 		
<p>(4)居場所としての活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サードプレイスとしての図書館サービス ○子どもの居場所づくり 		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、積極的に来館を呼びかけるような活動はできなかったが、感染が落ち着いてきたため、市町村と連携した取組を開始する予定としている。 		

《成果と課題》

○コロナ禍においても、おはなし会等のイベントや児童サービスの集合研修を安定的に実施することを目標にハイブリッド方式等を取り入れ、大きな研修やイベントを中止することなく提供することができた。遠隔地からの参加も多数あった。

○市町村立図書館職員、学校図書館関係職員等子どもの読書推進に携わる人達が情報を交換し、つながりを持てる機会が少なくなっている。

○コロナ禍のため、図書館への来館や長期滞在を促しにくく、予定していた居場所キャンペーンを実施することができなかった。来年度はコロナ禍の状況にもよるが、実施できるよう市町村立図書館と相談しながら進めていく必要がある。

○学校図書館関係者への「鳥取県学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及が進み、「情報センター」として、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館が軸となって情報活用能力の育成を進める先進事例が見られるようになってきている。

○学校図書館関係者以外の教諭が図書館活用教育の大切さを学ぶ機会を提供する必要がある。

《今後の展開》

○ハイブリッド方式による研修等により、市町村立図書館職員、学校図書館関係職員等にスキルアップの機会を継続的に提供し、子どもと子どもの本に関わる人々が連携しやすい環境づくりに努める必要がある。

○コロナ禍等により、居場所の必要性は一層高まると考えている。感染対策にも注意を払いながら、取組みを推進していく。

○図書館＝居場所の取組については、学校図書館とも連携しながら推進していく。

○学校図書館活用教育の大切さを広めるため、市町村教育委員会などを訪問し理解を求める必要がある。

○GIGAスクール構想の実現に向けて各市町村でICT環境が整備される中、図書館活用教育に求められる内容も変化している。これからの学校図書館に必要な要素を見極め、資料提供や研修の開催など、学校図書館や公共図書館の支援を充実させていく必要がある。

第3の柱 鳥取県の文化をはぐくみ世界に発信する図書館	行動評価	B
目標		
(1)郷土情報の活用・発信 ○郷土資料の収集・保存 ○郷土資料の活用・伝承		
<令和4年度の主な取組> ・鳥取県の歴史・文化、文学・文字活字、郷土出身人物等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展と講演会等を開催した。 ・「古文書に親しむ講座」を開催し、「とっとりデジタルコレクション」で公開する資料を通じ、くずし字で書かれた様々な資料に触れる機会を提供した。 ・資料展、企画展示等を多数開催し、鳥取県の魅力や出身者の活躍を発信した。 ・郷土情報の調べ方をまとめたパスファインダー「郷土学習ガイド」30テーマをすべて改訂するとともに、新たなテーマの作成も行った。 ・「鳥取県に伝わる昔話」の動画のYouTube配信（とっとりデジタルコレクション公開）を開始した。		
(2)地域文化、文字・活字文化の振興 ○出版、書店との連携 ○地方出版文化の振興		

<令和4年度の主な取組>

- ・図書館で図書を購入する際に、地元書店から購入し地域に還元した。
- ・「文字・活字文化の日」関連事業として、ブックインとっとり実行委員会と共催し、「ブックインとっとり記念講演会を開催した。

(3)環日本海諸国との交流支援と国際交流の推進

- 環日本海諸国への理解促進
- 環日本海諸国との交流促進
- 国際交流ライブラリーの充実

<令和4年度の主な取組>

- ・協定を締結している環日本海諸国の図書館と図書交換を進めた。令和3年度にはモンゴル中央県立図書館とも協定を締結し、図書交換を開始した。
- ・国際交流ライブラリー講演会を市町村立図書館との共催により行った（主会場、サテライト会場6会場、オンライン配信のハイブリッド開催）。
- ・外国語絵本の読み聞かせと外国の文化紹介を行った。
- ・多文化を知るイベントを市町村立図書館と共催し、外国の文化等を知る機会を提供した。
- ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。

《成果と課題》

○資料展、講演会、企画展示等を多数開催することにより、鳥取県の魅力や県出身者の業績を発信し、県民に関心を持ってもらう機会とするとともに、郷土資料等の利用につながることができた。また、当館の郷土文化の蓄積と発信に関する役割や機能を周知する機会となった。

○「古文書に親しむ講座」は、くずし字への興味・関心を深め、生涯学習へ結びつけ、とっとりデジタルコレクションの周知にもつながった。また、県内図書館職員向けの講座の開催も行い、古文書の解説が進んだ。

○郷土学習ガイドの改訂、昔話の動画配信は、子どもたちの調べ学習や教職員の教材収集等に役立っている。

○郷土情報の発信や情報収集のためには、市町村立図書館、学校図書館、関係機関・団体等とさらに連携する必要がある。

○郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化していく必要がある。

○国際交流関係の講演会、行事、図書展示、出前図書館等を行うことにより、県民が国際理解や関心を深める機会を提供することができ、関連図書の利用促進につながった。

○国際理解のための講演会や行事等は、参加者の関心が高く満足度の高い内容となった。引き続き開催することにより、国際交流ライブラリーの利用をさらに促進する必要がある。

○市町村立図書館と協力し、県内での利用促進や学校等の支援を充実する必要がある。

○鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う必要がある。

《今後の展開》

○郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積、情報発信により一層努めていく。また、これまで当館で行った展示等を県内図書館や学校図書館でも行い、広く県民に郷土情報を積極的・魅力的に発信していく。

○貴重な郷土資料のデジタル化を継続し、紙媒体と併せた利活用の普及啓発にさらに努める。また、資料保存のための対策を強化する。

○多文化共生をテーマにした交流イベントを開催し、図書館が外国人住民と地域住民の交流の場となるようにする。

○郷土情報の収集・保存・発信、国際理解等が県内全域でさらに促進されるよう、市町村立図書館や関係機関等との連携を強化する。

第4の柱 知の拠点としての図書館	行動評価	B
目標		
(1) デジタルネットワークへの対応 ○ デジタルアーカイブの構築 ○ 国、他機関等との連携 ○ Webサービスの強化		
<令和4年度の主な取組> ・郷土資料のデジタル化を継続して行った。 ・公文書館、博物館、埋蔵文化財センターと共同して、とっとりデジタルコレクションの運用を行った。 ・図書館業務専門講座などで「とりデジ」の広報を行い、利活用を啓発した。 ・国立国会図書館サーチ、ジャパンサーチとの連携を継続した。		
(2) 情報へのアクセス環境の整備 ○ 市町村立図書館等との連携・協働 ○ アウトリーチ型サービスの推進 ○ 知へのナビゲーションの充実		
<令和4年度の主な取組> ・図書館システムの更新に合わせて、セルフ貸出機を導入し利用者の利便性向上を図った。 ・全公共図書館で新聞記事やビジネス情報の商用DBが利用できる環境を継続している。 ・県内図書館等の情報提供サービスを支援するために、全県2日以内に届く物流システムによる配本を継続している。		
(3) 人材育成 ○ 職員育成 ○ 市町村立図書館職員、読書推進活動関係者等への支援		
<令和4年度の主な取組> ・資料のデジタル化に対応する職員養成のため、資格の取得を進めている。		
《成果と課題》 ○ 郷土資料のデジタル化を計画的に進めることができている。 ○ 利用者が必要とする資料、情報は多岐にわたっており、資料をデジタル化する際は、その選定と優先順位を考慮する必要がある。 ○ デジタルアーカイブシステムを周知し、利活用を進める必要がある。		
《今後の展開》 ○ デジタルアーカイブシステムの利活用を進めるための研修会等を実施する。 ○ 資料のデジタル化を進めるための講座を開催する。 ○ 生涯学習や研究等に利活用できる古文書解読の講座を開催する。 ○ 郷土資料のデジタル化を継続して行うとともに、県民等の利活用を普及啓発していく。		

(2) 4つのキーワード

1 ネットワーク 全県で県立図書館のサービスを利用できる環境整備	行動評価	B
目標		
(1) 市町村立図書館との連携		
<令和4年度の主な取組> ・「聞蔵Ⅱビジュアル」(朝日新聞)、「ヨミダス歴史館」(読売新聞)、「ルーラル電子図書館」(農山漁村文化協会)を県内全市町村立図書館で利用できるよう契約した。 ・市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送と搬送車による大量貸出等を行った。 ・県内図書館等の図書館経営を支援するため訪問相談を行った。		

- ・県内の図書館の情報提供機能の支援のため資料相談を行った。
- ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するため、図書館職員のスキルアップを目的とした図書館業務専門講座(年4回)・新任職員のための図書館職員実務研修会を実施した。

(2)物流システムの活用促進

<令和4年度の主な取組>

- ・全県2日以内に各図書館に資料を届ける物流システムを維持し、県内図書館の資料提供機能の支援を行った。

(3)危機管理への対応

<令和4年度の主な取組>

- ・鳥取県公共図書館協議会等でコロナ禍での対応について情報交換等を行った。

《成果と課題》

○物流システムの整備により、各図書館等が必要とする資料を迅速に届けることができ、情報の速やかな提供につながっている。

○災害発生時の対応については、県内の図書館で速やかに情報共有できるシステムが必要である。

《今後の展開》

○県立図書館で事業を実施するだけでなく、市町村立図書館との協働を意識して企画立案することが求められる。

○働き方改革などの影響で経費は高騰しているが、県立図書館の使命を果たすため物流システムの現在の体制を堅持していく必要がある。

○県内図書館のBCP計画に関する情報交換等が必要である。

<p>2 専門性 図書館が県民の課題解決を支援</p>	<p>行動評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>		
<p>(1)所蔵資料の充実及びサービスの充実</p>		
<p><令和2年度の主な取組></p>		
<p>・月2回館内職員を対象とした資料相談(レファレンス)勉強会を開催し、専門的なスキルを備えた職員の養成に取り組んでいる。</p>		
<p>・当館で受けた資料相談(レファレンス)事例を県民、市町村立図書館・学校図書館等と共有ため、国立国会図書館データベースへの登録に努めている。</p>		
<p>・新聞記事データベースをはじめ、農業、ビジネス、判例、雑誌記事等に関するデータベースを資料相談に積極的に活用し、本に留まらない最新情報や専門的な情報の提供に努めている。</p>		
<p>(2)専門機関との連携</p>		
<p><令和2年度の主な取組></p>		
<p>・鳥取県福祉相談センター、中小企業労働相談所みなくる鳥取、鳥取県よろず支援拠点等の各分野の専門機関との連携を継続しており、資料の提供だけにとどまらない利用者への情報提供を行っている。</p>		

(3)進化する情報化への対応
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービス導入のための情報収集、予算要求を行った。 ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした図書館業務専門講座(年4回)・新任職員のための図書館職員実務研修会を実施した。(再掲)
<p>《成果と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料相談事例の共有や館内研修により職員間でのノウハウの共有が進み、専門的なレファレンスに対応できる職員の層が厚くなってきている。 ○館内外の研修を通じて、進化する情報ツールの活用方法を習得し、実務に活かすことができている。 ・図書館システムの更新を行い、利用者の利便性を向上させた。 ○クラウド化や電子図書館への対応のための情報収集が必要である。 ○研修の実施に当たっては、先進的な事例や新しい取組・サービスが学べる機会を提供することを意識し、企画した。
<p>《今後の展開》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県民ニーズの多様化や社会の情報化に対応するために、職員研修やノウハウの共有を継続する必要がある。 ○電子書籍サービスの導入を行う。 ○クラウド化や電子図書館への対応のための情報収集を行う。

3 発信力	行動評価	B
目標		
(1)県民に対する積極的なアプローチ		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策や生活を応援する展示・サービス等を展開し、県民の図書館利用を促した。 ・マスコミや関係機関に積極的に情報提供を行った。 ・タイムリーな企画、関係機関と連携した企画を行い、マスコミや関係機関等への情報提供、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムによる情報発信を行った。 ・積極的に図書館展示を行った。 		
(2)多様な図書館活用の提案・普及		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館がある尚徳町全体のにぎわいづくりを目的に、とりぎん文化会館、県立公文書館との連携強化を図り、展示、出前図書館等を実施した。 		
(3)Webの特性を生かした情報発信		
<p><令和4年度の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアを積極的に活用した情報発信を行った。 ・令和4年10月から、インスタグラムでの情報発信を開始した。 		
<p>《成果と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の利用促進を図るため、積極的に図書館展示等を行い、満足度の向上や利用者の拡大につながっ 		

《今後の展開》

○県立図書館の事業や取組について、マスコミ等を活用した積極的かつ効果的な情報発信を行う。

○ホームページの充実、ソーシャルメディアにより若い方の図書館利用を増やすとともに、人から人につながる情報発信を行う。

4 保存と公開	行動評価	B
目標		
(1)適切かつ計画的な資料保存等の推進		
＜令和4年度の主な取組＞		
・将来的な資料保存のため、対策が必要な資料について燻蒸(消毒)処理を行った。		
・郷土資料の出版情報に常に気を配り、網羅的な収集・保存に努力した。		
(2)デジタル化資料の利活用と県民参加		
＜令和4年度の主な取組＞		
・デジタルアーカイブの利活用の講座を開催した。		
・「とりデジ」掲載の古文書資料の翻刻文作成につながる古文書講座を開催した。		
(3)書庫問題への対応		
＜令和4年度の主な取組＞		
・除籍基準に則って図書の除籍を行い、ひっ迫する書庫の状況の改善に努めた。		
・書庫にある不要資料を廃棄することで、書庫スペースの確保に努めた。		
《成果と課題》		
○除籍や不要資料の廃棄などを進めることで、書庫スペースの狭隘化に対する対策を行った。		
○デジタルアーカイブシステムについて、システムやコンテンツの利活用をすすめる必要がある。(再掲)		
《今後の展開》		
○郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努めていく。		
○郷土資料のデジタル化を継続して行っていく。		
○MLA(公文書館、図書館、博物館)連携による、デジタルアーカイブシステムの運用と利活用の促進を図る。		
○デジタルでのみ公開され紙媒体では作成されない資料の収集・保存について、公文書館とも連携しながら検討を行っていく必要がある。		
○除籍や不要資料の廃棄を進め、配架場所の再編による効率的な書庫スペースの運用を図る。		